

* 研究授業からの学び *

2021.12.13
No.7
文責 新玉

令和3年 11月11日(木)
第5学年 総合的な学習の時間 堀地 早紀 教諭
単元名 「ほんとに美味しいけん!西土佐の食」(全70時間)
小単元2 「伝えたい!おいしい西土佐の食!」(30時間)

<単元でつきたい力>

- 西土佐の食の良さや特徴に気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。【知識及び技能】
- 西土佐の「人・もの・こと」の中から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- 自分たちが設定した課題の解決に向けて真剣に本気になって自分事として取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

自分たちが西土佐の食の「何を」発信したいのか、発信したい内容を吟味することができる。

本時の評価規準

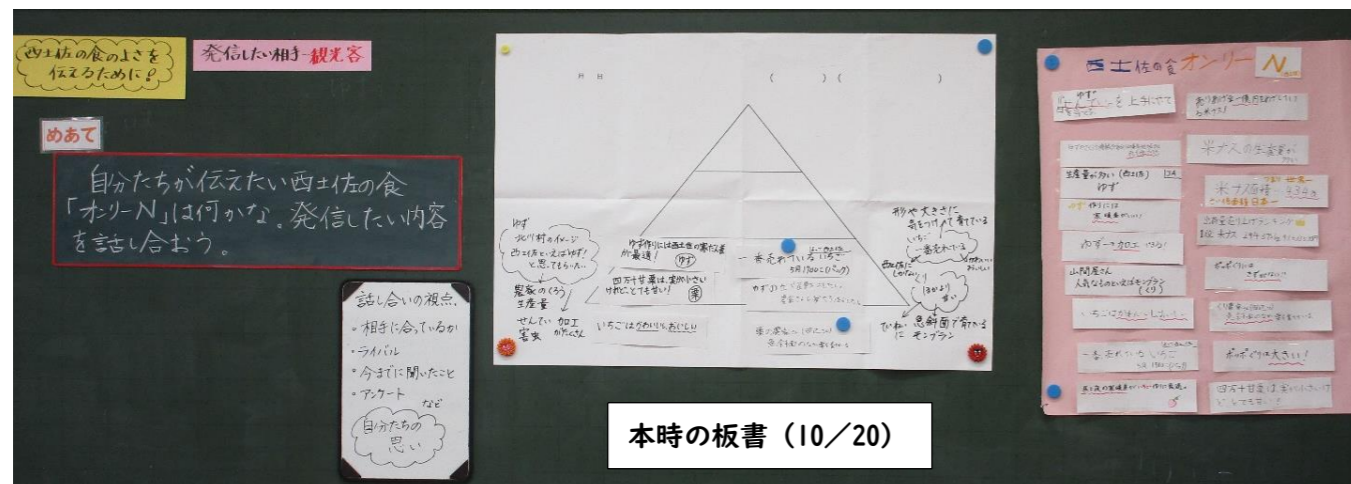
思考ツールを使って意見を述べたり、友達の意見も踏まえたうえで、自分たちが発信する内容について検討している。【思】

本時の授業風景

西土佐の食の良さを伝えたいな。「西土佐オンリーN(エヌ)」をみんなで考えよう!



西土佐といえば「ゆず!」と思ってもらいたいな。四万十甘栗は小さいけど甘いね。5月に一番売れる甘くておいしいイチゴも伝えたいな。



本時の板書(10/20)

研究協議より(抜粋)

授業者より

- 自分の思いや意見を、これまでの情報を理解して発表できていた。
- 子ども同士の意見が繋がっていなかった。
- 揺り動かしや声かけが少なかった。
- 意見をあげていくときの視点(多角的意見)が少なかった。
- 児童が意見をしぼる必然性を持っているかどうかを確認して、活動に入る。

参観者より

- 子どもたちは、自分が考えた理由をはっきりと伝えることができていた。
- 活動に入る前に、目的を確認していた。
- ピラミッドチャートの使い方を子どもが理解できていたか。
- 思考ツールを使って意見をしぼっていったが、その活動は子どもたちにとって必然性があったのか。
- 個人思考を活動の中に入れ、全員の考えを把握することで、話し合いを広げさせたり深めさせたりすることができる。
- 話し合いをするときに視点に戻るようにすると、話し合いが深まるのではないか。

指導主事より

- ・理由を伝える時に、今までの体験で知った農家さんの苦勞を伝えることができていた。
- ・意見を上げにくかったのは、吟味する観点が明確でなかった。
- ・西土佐の食の何を伝えるのか、内容を吟味することが大事。
- ・感じたこと、聞いたこと等、言語化された情報だけの活動だったので、客観的な数値などの情報を基に吟味すると、決め手や根拠につながる。
- ・それぞれの食べ物について、マトリックスを使って観点ごとに評価をしておいたものを基に、ピラミッドチャートを使って吟味していく。そのことで、食べ物同士の違いがはっきりとし、児童が意見を考えやすくなるだろう。

授業者のリフレクションより

今回授業をして、学んだことが2つある。1つ目は、思考ツールの使い方である。ピラミッドチャートを使って何を発信したいかを吟味していったが、視点が曖昧だったため、うまくしぼることができなかった。教師の発問で子どもの考えを揺さぶりながら、授業を進めていけたらよかった。2つ目は、話し合いを進めるために必要な情報についてである。子どもたちが思いをもって発言できたことはよかったが、客観的な数値が話し合いの中に出てこなかったため、話し合いが停滞してしまった。話し合いのときには、数値も含めて根拠を明らかにさせるように、情報収集や整理・分析の時間を工夫しながら単元を組んでいく必要がある。

☆これから取り組んでいきたいこと

- *個人思考を活動に取り入れ、全員の考えを把握
- *視点を明確にした話し合い
- *言語情報と客観的な数値情報を基に吟味
- *効果的な思考ツールの活用